

第7章

学びを深めるプログラムデザインと ロールモデルや先輩が創るキャリア教育 「女子大学生キャリア形成セミナー」の実践から

佐伯 加寿美

1 はじめに

国立女性教育会館（以下、NWEC）は、平成25年度から毎年1回、「女子大学生キャリア形成セミナー」を民間の女性団体である「リーダーシップ111」（各分野を代表する女性たちが、よりよい社会の実現を目指して、助け合い、学び合い、情報交換するネットワークとして1994年に設立した団体）との共催で実施している。本セミナーは、社会や組織を支える女性リーダーを育成することによって男女共同参画社会の推進を図ることを目的とし、就職も含めたライフプランを考える長期的な視点で構成されている。

自らのキャリアを模索する4年制大学の女子学生を対象に、①仕事を持ち自らの人生の選択権をもつことが豊かな人生設計に重要であること（自主自立）、②女性の人生設計にかかわる様々な出来事をあらかじめ知っておくこと（ライフ・プランニング）、③キャリアの構築が単に個人の自己実現にとどまらず、よりよい社会づくりにつながること（社会を変える・支える志）を学ぶ機会を提供する。

プログラムはNWECのこれまでの知見や情報を総動員した内容となって

II 実践の展開

おり、共催団体であるリーダーシップ111からの選ばれたロールモデルが、パネリストとして登壇するだけでなく、2日間の交流会やグループワークにも主体的に加わり、face to faceで個々の学生に寄り添ったアドバイスを行う。そのため臨場感あふれる生の声や、働くこと、生きることの価値観を直接学生へ届けることができている点は当セミナーの大きな特徴である。また、過去のセミナー参加者がOG企画委員として参加していることもこのプログラムの効果をより高めている。

本稿では、キャリア開発のためにデザインされたプログラムや、ロールモデル、OG企画委員が事業に関わることで生まれる効果や成果について紹介する。

2 セミナーの概要

これまでNWECでは、複合キャリアに関する調査研究や、埼玉大学、埼玉県私立短期大学協会と連携し学生のキャリア形成についての事業を実施してきた。今まで蓄積してきた知見を盛り込み、平成25年度に、4年制の女子大学生を対象として開発したプログラムが、この「女子大学生キャリア形成セミナー」である。当館までの利便性を考え、関東甲信地方の女子大学生を対象に、広報・募集を行っている。1泊2日の合宿形式で行うことで、じっくり自分と向き合うプログラム構成となっており、寝食をともにすることで学生同士のネットワークづくりも円滑に進み、学習効果をより高めている。

平成27年度の日程は以下の通りである。(各プログラムの間に10分程度の休憩あり)

開催日：平成28年2月20日（土）～2月21日（日）

日	時間	日程
2/20 (土)	13:15～14:00	開会式・オリエンテーション・アイスブレイク
	14:00～15:00	講義
	15:00～18:10	パネルディスカッション、パネリストに聞こう
	18:10～19:30	チェックイン・夕食
	19:30～21:00	交流会
2/21 (日)	9:00～10:00	情報提供
	10:00～12:00	グループワーク①
	12:00～13:00	昼食
	13:00～15:00	グループワーク②
	15:00～15:30	閉会・修了証授与
	15:30～17:00	懇親会（※希望者のみ）

3 セミナーの特色

ここでは本セミナーの特色のうち以下3点を取り上げ説明するとともに、実践を通して明らかになったセミナーの成果と参加者に与える効果や生じる変容（＝心の変化）について述べる。

- ・学びが深まるようデザインされたプログラム
- ・パネリストとの関係性
- ・学びの循環

学びが深まるようデザインされたプログラム

2日間にわたる本セミナーのプログラムは、前述「自主自立」「ライフプランニング」「社会を変える・支える志」の視点を踏まえたものとなっており、かつ構成しているプログラム一つ一つは、複合的に、有機的につながって参加者の学びをより深めるようにデザインされている（表1）。

① NVEC の知見を生かし男女共同参画の視点に立った「講義」

数々の国内及び国際比較データを用い、女性をとりまく現状や課題を国際比較からひも解く。

表1 平成27年度「女子大学生キャリア形成セミナー」プログラムデザイン

【プログラムの特徴】

- ① 企業等の組織で活躍している女性リーダーがロールモデルとして体験談を語るだけでなく、1泊2日の間、学生に直に接することで学生の内的キャリアを高め、働くことを通じた社会との主体的関わりや働く上での課題などを学ぶ。
- ② 男女共同参画の視点や長期的視点でのキャリアについて学び、女性のキャリア形成の意義や活躍の可能性について知る。
- ③ 自分自身のライフデザイン・キャリアデザインを考え、翌日から具体的に行動できる方策を検討する。
- ④ OGが企画や当日の運営に参加することで、学びの循環を促進する。

<p>対象 女子大学生 30名</p>				
<p>目的</p>	<p>① 仕事をもち、自らの人生の選択権をもつことが豊かな人生設計に重要であることを知る。(自主自立) ② 女性の人生設計に関わる出来事をはじめ知る。(ライフプランニング) ③ キャリアの構築が単に個人の自己実現にとどまらず、社会の変革につながるという視点をもつ。(社会を変える・支える志)</p>			
<p>目標</p>	<p>男女共同参画推進の視点</p>	<p>実態・課題の把握と分析</p>	<p>課題解決のための分析・課題解決に向けた実践力</p>	
<p>内容 と 方 法</p>	<p>○男女共同参画の視点をもつたキャリア形成について理解する ○女性がキャリアを形成する意義と可能性を知る ・講義 ・パネルディスカッション</p>	<p>○仕事をもち、自らの人生の選択権をもつことが豊かな人生設計に重要であることを知る ○女性の人生設計に関わる出来事あらかじめ知る ○キャリアの構築が社会の変革につながるという視点をもつ ・講義 ・パネルディスカッション ・交流会 ・グループワーク①・②</p>	<p>○参加者同士のネットワークづくりや情報交換を行う ○企業等で働いている女性の現状を知るとともに課題を把握・分析する ・パネルディスカッション ・交流会</p>	<p>○自分自身のキャリア形成を考える上での課題を整理・共有する ○社会との主体的な関わりについて学ぶ ○自分自身のライフプラン・キャリアデザインを考える ○参加者同士のキャリアプランを共有する ○翌日から具体的に行動できる方策を検討する ・パネルディスカッション ・交流会 ・グループワーク①・②</p>

参加者は、日本の女性の管理職比率が国際比較から見ても極めて低い状況であり女性の声組織や国に対して反映しにくいこと、M字曲線の底は上がっているもののまだまだ結婚・育児での離職率が高いこと、M字の底が上がっても6割が非正規雇用であり正規、非正規雇用での生涯収入が大きく異なること、などを学ぶ。

あわせてNVEC 研究国際室島直子研究員らが行った女子大学生追跡ヒアリング調査結果も報告された。就業前の学生であった時の意識と、就業後半年経過した後での意識の変化を調査したものである。「正規雇用で働き続けること」について、意識が二分したという結果が興味深い。就業後、「正社員として働き続けることは可能である」と答えた者の多くは、職場で両立支援制度等が整備され、育児をしながら働いているロールモデルが多く存在し、周囲の同僚や上司が制度利用者を理解しているといった環境にいる者である。これらの要因は「制度を利用してよいのだ」といった安心感を強めている。逆に実際に就職後、仕事量が多く、休みがとりづらい職場環境であり、さらに育児・家事の両立をしているロールモデルが少ない会社では、「正社員で働き続けることは難しい」と感じ、「続けるにはパート（非正規）しかない」と、考える傾向が見られた。女性にとってキャリアを考える際に、これから起きる人生のさまざまな出来事を考えておくことは欠かせない。就職する以前から「両立は即、直面する課題」なのである。

このように、就職する際には、「やりがいのある仕事」、「楽しいと思える仕事」に重要度を置く学生が多い現状だが、仕事、家事・育児両立の可能性にも注目しておく必要がある。女性活躍に向けて少しずつ社会は動き始めている。制度を活用しながら正規雇用で仕事と家庭を両立することは可能である。この講義は日本の働く女性の現状、不安定な社会状況、経済的デメリット・貧困問題などを、事前に知ること、自らのライフイベントを鑑み、キャリアを考えていく土台となった。

参加者からは「今の社会の様子を知り、会社選びに生かしたい。正社員として継続できるかは重要」「女性を取り巻く環境がわかり、両立も可能と

II 実践の展開

知り、社会が変わりつつあるということを知って希望が持てた」などの声があった。

②パネリストの価値観、生き方を知る「パネルディスカッション」、「パネリストに聞こう」

男女雇用機会均等法1期生としてエネルギー系企業で内部統制に関わる女性、電機大手企業から食を扱う企業に転職しマネジメント職として働く女性、中学校教師で現在国立女性教育会館に出向中の公務員の3名が、パネリストとして登壇した。

3名は個々のキャリアをつくるために人生のどの時点で、どのような選択をしてきたか、転職をどのように切り開き、課題を乗り越えてきたのか、今だからこそ話し伝えられること、社会との関わり、社会の中での自分の役割など、参加者に熱い想いを届けた。ずっと働き続けようと外資系企業を選び、育児をしながらも働くことは楽しいということ、異動するごとに仕事を次々と任せられ、仕事のやり方を自分で見つけ広げ仕事の醍醐味を経験したこと、常に自分を見てくれる人、支えてくれる人がいたから困難も乗り越えられたことなどが語られ、共通して「仕事は楽しい、ぜひ続けて」というメッセージが送られた。



パネルディスカッション

参加者からは「働く女性たちがどのような選択をしてきたのかが参考になり、様々な生き方があるのだとわかった」「パネリストの方々の人生を共にたどることでその考え方を知ることができた」との感想があった。

続く質疑応答の「パネリストに聞こう」では、「社会人になる前にやっておくべきこと、やらないで後悔したことはありますか」「20代で結婚して子

供をもちたいと考えていますが、20代は仕事の幅も広げていく時期とも聞いています。どちらをとったらよいでしょうか」「男性の多い職場で困ったことはなかったですか」「集団をまとめていくための秘訣は何でしょうか」など時間が足りないほど様々な質問が出た。会場からは、「普段2～3歳上の方の話聞く機会はあるが、逆に何歳も上の方のお話をお聞きする機会がないので最前線の方のお話はとても貴重なものだった」「質問に答えてもらって何か見えた気がした。否定→肯定になった」などの声があった。また、「自分が思い浮かばないような質問をする人がいて新たな気づきがあり、楽しかった」という意見もあり、学生同士の理解も深まるきっかけとなった。

③パネリスト&OG企画委員と本音トークの「交流会」



交流会

夕食後に開催された交流会は、パネルディスカッション後の質疑応答よりさらに近い距離で、少ない人数で気軽に聞き、話し合うことができる場として設定した。

今年度の交流会には、パネリストの他に、OG企画委員5名も加わった。このセミナーでは修了生である先輩OGの有志が、毎年「企画委員」として企画に参加している。昨年度は3名のパネリストを囲んで3グループに分かれ90分間じっくり話すという方式だったが、他のパネリストの話も聞きたいという声や、企画から参加している参加者と同年代の同じ目線のOG企画委員の話も参加者にとっては意義があるのではということで、今年度は交流会のやり方を見直した。OG企画委員も加えた合計8名が、8つのテーブルに座り、参加者が話を聞きたい人のテーブルを30分毎に3つ回る方法を取った。

この設定で、より多くのパネリスト、OG企画委員、学生と話し、聞き、

II 実践の展開

情報交換する場が生まれる。「パネリストと近くで話すことができ、普段聞けないことも質問でき、相談にも乗ってもらえた」「他大学の学生の悩みや楽しいこと、学んでいることなどを知ってよかった」「自分は今何をすべきなのかということのを改めて考えようと思う機会になった」との感想があった。学生が主体的にキャリアを考えていくには、自己理解を深めることが必要であり、そのためにパネリスト、OG 企画委員、参加者同士のお互いの価値観に触れる場を作り、自分の内面を見つめる時間として交流会を設定している。話し合いから、気づきや発見が生まれ、話すことで自己理解が深まり、同時に自分との差異の認識から他者理解に進む。それによって漠然と考えていた働き方、生き方への考察を進め、社会との関わりへの意識が生み出され、女性のキャリア形成に関する理解の深化が見られた。

また、「大学の友達にキャリアのことを話すと『意識高い系』『話しかけにくい』と言われてあまり聞いてもらえなかったが、今回参加して気持ちがとてもすっきりした」という参加者もいたように、普段の大学内では友達同士が気軽にキャリアの話ができる状況や、改まって今後の自分たちのキャリアを話す機会も少ないと考えられる。交流会が終わった後も話が尽きない学生の姿に、安心して互いに話せる時間と場を保障するプログラムの成果が感じられた。

④新たな自分を発見、明日への一步を踏み出す「グループワーク」

2日目は、1日目に自分の中にインプットされた溢れんばかりの情報や学びや気づきを「アウトプット」していくことを目的にグループワークを行い、各人が内面を整理し、見つめ、吐き出す作業を行った。

グループワーク①では、1日目のパネルディスカッションや交流会を受け、自分が気づいたこと、新たにわかったことなどを自分自身の言葉で、「話す」「書く」という表現でどんどん自分の内面から出していく。メンバーは互いによく「聞き」「見て」グループ全員でお互いの気づきの整理・共有をすすめる。これからの自分のキャリアで大事にしたいことや、社会とどう関わることができるかなどについて、ワールドカフェの手法を使いながら話し合った。

参加者からは、これからの社会は「多様性」を重んじ、「男女を尊重する」「きちんと意見が言える」「属性によらない社会であること」が必要であるとの発言があり、男女共同参画の視点から社会と主体的、積極的に関わっていこうとする姿勢も見られた。



ワークショップ①の成果物

グループワーク②では、自分自身を主体的、客観的に見つめるため、キャリアシート（マンドラチャートと呼ばれる9マスのシートを利用し



ワークショップ②

たシート（表2）の記入を行った。これは、マスを埋めていく作業により、自分の強み、不安、価値観、明日からの行動を一目で見える化するものであり、自分軸を明確化し、内的キャリア（＝生きること働くことの価値観）を高めることを目的とする。シートを書き終えた後は、グループ内で共有し、メンバー同士互いに「言葉の花束」でエールを送り合う。言葉の花束とは、自分の弱点や短所をメンバーが長所に言い換えるワークである。今まで気がつかなかった自分のポジティブな面を知り、自己肯定感につながる。これからのキャリア形成の基本となる自分軸を持つヒントを得る時間になった。

ここでグループワークが生み出す効果として、参加者の「気づき」と、気づきから生まれる「心の変化（＝変容）」をあげたい。気づきは自分を変え

氏名		明日からの一歩 (アクションプラン)	
<p>F: あなたの E をクリアするため具体的にどんなことができると思いますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在から自分磨きをする ・自分のブレない軸を考える ・一つ一つ自信を積み上げていく 		<p>C: あなたの心や体にプラスのパワーを与えてくれるもの (もしくは時) は何ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイトでお客様に喜んでもらえた時 ・人と語り合うとき 	
<p>B: あなたの強みは何ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちになって考えることができる ・何事にも好奇心をもち行動できる 		<p>D: キャリアを重ねて得たいこと (もの) は何ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が社会に貢献しているということに対する自信・誇り ・広い視野と経験 	
<p>E: 社会にでて不安なこと、心配なことを 3 つあげてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識や自分の能力などがついていけないか ・自分を持ちながら仕事ができるか ・メンタル、人間関係 		<p>H: あなたのキャリアを重ねていくために必要な活動や行動は何ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事を続けていきやすい会社を選び ・英語力をつける ・いろいろな人と問わり、話を聞き、自分の価値観を知る 	
<p>期日</p> <p>明日から</p>		<p>何をどうする</p> <p>自分がやるべきこと、やりたいこと (大学の内に、社会人になつて) を具体的に書き出す。</p> <p>自分の軸となるものをもう一度よく考える、それこそ主体的に！</p>	
<p>OOから</p> <p>3月から</p> <p>夏から</p>		<p>自分が本当に働きたい企業をみつける (長く続けられることも視野に入れて…)</p> <p>インターシブに積極的に参加する</p>	

ることができる方法の1つである。グループで話し合うことで、他の人と同じ気持ちだとわかりホッしたり、違いを知り、あらたな見方や考え方がわかったりして、気づきが生まれる。気づくことで客観的に自分を見つめ、自分を肯定的にとらえることができ、心に変化が起きる。

1日目に多くの情報が参加者に注ぎ込まれ、個々の水がめからインプットされた水が溢れ出た2日目に、グループワークを行うことで、情報や知識を整理し、気づきや発見を言葉として外に表す。前夜の交流会では夜遅くまで近い距離で語り合い、お互いにアウトプットできる人間関係の下地もできあがっている。ワークに十分な時間を確保することでより学習効果を高め、参加者の変容を引き出すことが可能である。このように、「講義」から「グループワーク」に至るまでの1泊2日のプログラムは有機的に絡みながら、キャリアについて各自が正面から向き合い、内面を客観視し、最終的には具体的なキャリアプランを考えることができるようデザインされている。

参加者からは、「自分が2日間考えたことを言葉にして仲間に伝え、仲間と考えも共有できた」「昨日よりも深く自分のキャリアについて考えシェアし、未来のためにプランを立てることができた」「自分ってもっと自信をもっていんじゃないかなと、ポジティブになった」とあるように、他者との「コミュニケーション力」「聞く力」「話す力」に注目し、アウトプットを充実させることで、他者理解、自己理解が進み、自己肯定感のアップにも寄与することができた。また、全体共有や発表をする場を増やし、参加者同士で話し合う場の設定を多く盛り込むことで、コミュニケーション力やプレゼンテーション能力の向上に資するプログラムにもなっている。

パネリストとの関係性

ロールモデルであるパネリストは共催団体であるリーダーシップ111のメンバーとNWEC職員である。パネリストは、ディスカッションの時間のみの登壇にとどまらず、1泊2日の研修中、昼夜を問わず、すぐ間近で参加者と関わり、主体的に積極的に寄り添う。成功体験だけではなく過去に経験し



た困難や失敗にも言及し、後進の育成のためにと、時には苦しかった胸のうちを明かす場面もある。こうしたことができるのは、本セミナーを共に創る共催団体のメンバーだからこそである。

グループワーク：パネリスト・OGが見守る

育児が思うように行かず

「孤育て」でつらい思いをしたこと、思い描いていた職に就けず悶々とした日々を過ごしていたこと、次々とやってくる試練に落胆したことなどを伝える。成功談だけでなく、失敗談、挫折した話などを聞くことで、参加者はより身近にパネリストを感じることができ、心の距離が縮まる。「すごい経歴をお持ちの方でも初めからすごかったわけではなく、迷い悩みながら少しずつ進まれていったということを実感し、励まされた」との参加者の声からも分かる。パネリストは、思うようにいかなかったことが逆に自分を成長させたこと、仕事の醍醐味を見つけ広がりをもっていったこと、人と人のつながりが自分を助けてくれたことなど、人生経験を重ねた今だから語れる、困難や失敗を乗り越えてきた過程で見えてきた人生の知恵を学生と共有する。

交流会ではパネルディスカッションでの内容を深掘りするとどまらず、参加者の悩みや個々の進路の相談にのったりする様子も見られた。例えば1人の学生は以下のような変容を見せている。「自分の母を見ていて、出産か仕事かどちらかを選択しなくてはいけないと思っていたし、出産したら他の人よりキャリアに差がついてしまうとも考えていた。でも平野さんの話を聞き、相談にのってもらい、0か100ではなくどちらもできること。子育ては思うようにならないけれどそれが自分を成長させて人と社会の関わりが広がることを聞き、考え方が一変した。インターンシップや会社選びのポイントも明確になり女性の職場での活躍について興味がわいた。」と語る。

2日目のグループワークでパネリストは、学生らを温かく見守り全面的な受容とフィードバックをした。「たくさん失敗して打たれ強くなって。仕事と育児は両立できるからブランクを作らず続けてほしい」「違う視点や違う経験の人と知り合ってアドバイスを受けて」「仕事をする上ではバランス感覚が必要だから、仕事と違う場をつくり、いろいろな人と接するのが大切」というエールを送った。

参加者からは、「近い距離で、直接より深い話やプライベートな話まで幅広く語り合えた」「仕事は本当に楽しい！と語ってくれるパネリストとの出会いで明日からの生き方が変わる2日間だった」などの感想が示すように、パネリストが一つ一つ丁寧に対応していく姿を見て、触れて、参加者は、パネリスト三者三様のキャリア形成についての考えや何を大事にしていくかという生き方、働き方の価値観の考察を進める。パネリストが2日間寄り添うことで参加者は気づきを得、心に変化をもたらし、内的キャリアを高め、学びを深めることができるのである。

学びの循環

本セミナーの修了生が企画委員として、毎回翌年度の企画・運営に携わっている。平成27年度の3期生に向けての企画会議には1期生1人、2期生4人が手を挙げ、参加した。彼女たちは企画内容の検討、効果的な広報や周知の仕方の工夫、チラシデザインの作成を行った。

チラシ表面には、写真を多く使い、見てすぐに楽しい様子が伝わるものとなっている。「最初はどうのような内容のセミナーかわからず来たが、参加したら楽しかったし前向きになれた。それをぜひみんなに伝えたい」「表面の情報は極力少なくして、セミナーのテーマで目を引いてもらい、詳細は二次元バーコードからとればいいのか」そんなOGの思いとアイデアを盛り込んだチラシが完成した。

彼女たちは、事前の企画だけでなく、当日の運営にも参加した。交流会ではセミナーを修了した、少しだけ上の先輩として参加者に交じり、自分の不

II 実践の展開

安や悩みを同じ目線で語り合った。セミナーに参加したからこそ分かる気持ち、どのような思いで参加したのか、参加後にどのような考えになり、それが今の自分にどう活かされているのか、現在の就活やインターンシップの様子、内定が取れた話など自分たちの経験を自分たちの言葉で伝えた。2日目のグループワークでは、各グループに「見守り隊」として一人ずつ参加し、スムーズなディスカッション、グループの盛り上げ役としても支援している。



参加者からは、「様々な立場の人（同年代の女子大学生、OG 企画委員、社会人の方々）と話す貴重な経験ができた」、「ここでできたつながりを大切にしたい」などの声もあった。

このように参加者同士のネットワークのみならず、パネリストや OG 企画委員など、このセミナーは縦横のネットワークの構築にも寄与している。

学びがあったのは参加者だけではない。OG 企画委員も学生と触れ合い、語り合うことで大きな気づきがあった。「私たちから一方的に教えるのではなく一緒に悩み考えることで、参加者から教わることも多かった」「前回セミナーを受けた時に自信を持つことが大切と感じたので、参加者に自信をつけてもらえるようにサポートした」「OG 企画委員として今回得たものを忘れず日々を自分らしく過ごしていきたい」など、参加者の学びを深めただけでなく、自分自身を見つめなおす機会となり、自身の学びも高めている。

このような OG の活発な活動を見て、平成 27 年度（3 期）のセミナー終了時に、翌年度（4 期）の OG 企画委員を募集したところ、4 分の 1 の学生が立候補してくれた。自分たちも後輩のサポートをしたい、役に立ちたい、セミナーに関わろうという意識が生まれたと言える。学習した人が次は学習す

る人を支え、1期・2期・3期とネットワークをつなげていく「学びの循環」が構築されているのである。

1人のOGがこう書いている、「最初は不安だった参加者の顔がだんだん



OG企画委員

笑顔になっていく瞬間に立ち会えて幸せ。自分も頑張ろうと心から思え、いつかパネリストとして戻ってこられたらという夢を持つことができた」と。

学びの循環は、社会教育の目指す互酬性であり、知の循環であり、回を重ねるごとにその輪はどんどん大きくなっていくであろう。

4 おわりに

「キャリアを考えることは人生を考えること」がこのセミナーのテーマであるが、これには次の3つの意味がある。

第1は、キャリアを自分の生き方全体ととらえ、長期的なスパンで考え設計していくこと。単に就活の仕方を知る how to ものではなく、結婚、育児などのライフイベントをどう乗り越えるかという課題や、社会の中で自分の仕事をどのように位置付けていくのか、また組織の中でどのようにキャリアを重ねていくかについて、具体的に考える機会を与えるものである。

第2は男女共同参画の視点を持つこと。男女共同参画は大上段に構えた、私たちの生活から遠く離れたものではなく、働くこと、暮らすこと、生きることすべてに関わってくる。私たちは無意識のうちに、性別役割分業やジェンダーバイアスに縛られてはいないだろうか。「女だから」、「男だから」と

II 実践の展開

ということが暮らしやすさや自分の可能性を狭めていないだろうか。男女共同参画の視点を持つことはこれから社会の中で、自分が自分らしく生きていくために必要なことである。

第3は、主体的に社会と関わっていくこと。キャリアの構築は単に個人の自己実現にとどまるものではなく、社会をよりよくしていこうという思いがこめられている。キャリアは社会と自分をつなぐものであり、人と人を結びつけるものなのである。

参加者は友達と誘いあつての応募ではなく、1人で申し込んだ学生がほとんどであった。キャリアに対する意識や関心があり、かつ自立している学生が多かった反面、自分を真面目にとらえるあまり自己肯定感が低く、現実と理想のギャップの中で自分の将来に対して不安を抱いている参加者も見られた。しかし2日目のセミナー終了時にはポジティブな言動、笑顔と自信が見え、心的変化（変容）がうかがえた。

2日間参加した学生からは、「実際に働く女性や同年代の人と将来について意見交換し、人とこんなに自分の人生についてシェアしたのは初めて」「受け身の姿勢でなんとなく自分の将来像を描けたらいいなと思っていたが、パネリストや他の学生の意識に触れることで新たに自分を考え直すきっかけになったと思う」「明るい未来が見えるセミナーだと感じた」「将来、女性労働の支援をする活動をしてみたい」などの声があった。漠然と描いていた自分の未来図と現実とのギャップで不安や悩みを抱いていた参加者たちが、今回参加したことにより、大きく前進した自分を発見することができた。

「キャリアを考えることは人生を考えること」というテーマの元に開発された本セミナーは、NWEC 独自のものであり、講義、パネルディスカッションから、グループワークへとつながる一連のプログラムデザインにより、自分軸を探し、他者や社会との主体的な関わりを考える機会となり、学生のエンパワメントを高めている。

今後、男女共同参画の視点に立ち、ライフプランを包括したキャリア開発を行うセミナーの必要性は高まりを見せるであろう。平成26年度のセミナー

参加者からは、ここで学んだことを活かして就職につなげたという報告も届いている。平成27年度は大学職員や企業からの問合せがあり、実際にオブザーバーでの見学者が数名いたことからこのプログラムへの関心がうかがえる。平成28年度には、青森県立保健大学でプログラムの一部を活用して大学生に向けてキャリア支援セミナーが開催された（青森COC+推進機構）。

NWECは毎年度プログラムのさらなる検討を重ね、各地の大学で取り入れられ、展開されることを目指している。一方、広報手段や多様なツールの利用などを通じて、臨場感を学生に届ける工夫をし、参加者の拡大も図っていききたい。

本セミナーはパネリストをはじめ、OG企画委員やNWEC客員研究員など、多くの方の協力を得て成り立っている。平成28年度には4期生が誕生する。私たちは1期から4期へとその輪がさらに広がり、いつの日かOGがキャリアを築いてロールモデルとして戻ってくることを期待している。



平成27年度セミナー

(さえき・かずみ 国立女性教育会館事業課専門職員)

